

# 中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

大町高等学校

## 中信地区安全登山研究会(夏季)

7月16日、中信安全登山研究会が開かれた。出席校は、白馬、大町北、深志、大町の4校だったが、豊科、県ヶ丘から文書提出があり、合計2校の学校登山、5校の山岳部の夏山計画の検討が行われた。

今年度中信地区で学校登山を計画しているのは、白馬と大町の2校。大町北は学年で計画したが、参加者が少ないため中止となった。白馬は、従来3年間に1回は山に登るということを生徒に課していたが、ここ2年は天候の関係で実施ができずにいた。2年行わないと、職員の中に経験者が減ってしまい、その部分での困難が生じているとのことだった。来年度からは学校の生き残りをかけて、国際観光科を開設することになるが、そのカリキュラムの中では、白馬という地域の特性として山岳も大きな目玉であり、それを見越して、今年の学校登山は重要だという報告もあった。山域は当然、地元の白馬岳だ。大町については、前号、前々号で報告した通りなので、省略する。

山岳部の活動としては、以下のような報告があった。すでに実施済みのものもあるが、紹介したい。今年は、比較的活発に活動しているように思われる。夏休みの短い中、各校ともそのやりくりが大変なようである。

|       |                   |   |
|-------|-------------------|---|
| 大町北   | 7月19日—20日         | 蓮華温泉—白馬大池—白馬岳往復 (実施済)                                     |
|       | 8月10日—12日         | 八方尾根—唐松岳—五龍岳—鹿島槍ヶ岳—爺ヶ岳—扇沢                                 |
| 大町    | 7月18日—19日         | 大谷原—西俣出合—冷池—鹿島槍往復—爺ヶ岳—扇沢 (実施済み)・・・悪天のため鹿島槍断念              |
|       | 8月13日—16日         | 扇沢—針ノ木峠—平の渡し(泊)—五色ヶ原(泊)—ザラ峠—室堂—雷鳥沢(泊)—立山—一の越—たんぼ平—黒部ダム—扇沢 |
| 豊科    | 8月10日—12日         | 燕岳—蝶ヶ岳(入下山口は検討中)  |
| 松本深志  | 7月19日             | 七倉岳、船窪岳(日帰り)  |
|       | 7月31日—1日          | 西穂追悼 上高地—西穂山荘(泊)—西穂山頂往復(独標にて追悼式)—上高地                      |
|       | 8月17日—19日         | 仙流荘—バス—北沢峠—長衛小屋(泊)—甲斐駒往復—長衛小屋(泊)—仙丈ヶ岳往復—北沢峠—バス—仙流荘        |
| 松本県ヶ丘 | 7月11日—12日         | 三俣—常念—常念乗越(泊)—蝶ヶ岳—三俣 (実施済み)                               |
|       | 7月24日—26日         | 上高地—横尾(泊)—横尾—殺生(泊)—槍ヶ岳往復—横尾—上高地 (実施済み)                    |
|       | 8月1日—11日<br>IH組   | 1—3日 下見 4—5 現地休養<br>6—11 全国大会                             |
|       | 8月1日—3日<br>IH不参加組 | 扇沢—針ノ木峠(泊)—新越—種池(泊)—爺ヶ岳往復—扇沢                              |

なお、池田工業、木曾青峰、松本蟻ヶ崎については当日の報告はなかったが、そのうち松本蟻ヶ崎は7月27日から29日にかけて、新穂高から槍ヶ岳に登ったということである。そのほか、各校の情報交換が行われ、1ピッチの長さについて質問が出され、経験交流をした。このような機会が、他校の山行を知ることは貴重である。また、自校の計画を見てもらうことで、客観的な目で安全登山を考えることができる。安全登山研究会の名の所以である。大事にしたい会であると再認識した。

## クライミングでいい汗をかいてきた

長野県の夏休みは短い。本校もご多分に漏れず、夏休みがはじまったのが29日。盆明けの18日には終わる。私事ながら、役職柄生徒をそっちのけで4日から11日までインターハイに行かぬばならない。前半は補習授業もある関係で、IHを避けると、合宿をお盆の最中に持つてこざるを得ない。だから夏休み中は生徒をあまりかまわず、申し訳ない。そんなことへの罪滅ぼしの意味もあり、消化不良気味の生徒と一緒にここ数日、岩登りをしてきた。場所は大町市の西郊にある西山城址の通称「ぬすつと岩」。

今年に入って人工壁ばかりで外岩に連れて行く機会がなかったので、1年生と昨年途中入部した生徒は外岩初体験。人工壁やボルダーはうまいが、発想が全く「岩登り」ではない。本来、人工壁も外岩も基本的な技術も発想も同じでなければならないのだが、すべてが人工壁の安全を確保されたところでのクライミングからのものなのだ。なかなかこちらの意図が伝わらず、もどかしい。それは無理もないことなのだが、生徒にはやはりアルパインクライミングの何たるかを教えたい。すべての技術には「わけ」がある。安全のために何をどうするか。どうしてそうしなくてはいけないのか。・・・そんなことを思いながらの岩登りだった。インドアや人工壁の生徒に、支点構築の重要性を教えるには、やはり外岩に連れて行かなくちゃ・・・。



さて、ゲレンデとはいえ、私自身も久しぶりに本物の岩に触るとやはり胸がうずく。生徒もはまっていたが、それ以上にはまって時間を忘れて岩と戯れた小生でありました。

## 編集子のひとごと

下界は本当に暑い。夏山シーズンが本格化するにあたって、御嶽での搜索活動が再開された。6名の不明者の一日も早い発見をと願うばかりだ。搜索再開の初日山梨県の男性が発見された。残念な結果ではあるが、ご家族にとっては、ようやくけりがついたというべきだろう。先日は屏風岩で宙づりになった男性のことがニュースになった。夏山はまだはじまったばかりだが、連日のように新聞紙上には「遭難」の記事が掲載されている。僕らには引率責任ということばも付いて回る。くれぐれも安全登山で。(大西記)